

◆ 「常任委員会」の次第

1. 委員長委嘱人事
2. 令和元年度の活動報告（事業報告） 及び 第74回札幌大会報告
3. 令和元年度の会計決算・監査報告
4. 協議事項
  - (1) 令和2年度事業(活動)計画
    - ①事務局            ②会計局            ③庶務部
    - ④研究部            ⑤情報部            ⑥小中学部
  - (2) 令和2年度予算案
  - (3) 第75回十勝・帯広大会について
    - ①大会概要について
    - ②研究主題解説 <連盟研究部><十勝・帯広大会研究部>
    - ③大会会員総会について
  - (4) 第76回上川・旭川大会について
  - (5) 第77回大会以降の開催地について
    - R04 第77回釧路大会
    - R05 第78回空知大会
    - R06 第79回函館大会
    - R07 第80回札幌大会
    - R08 第81回オホーツク大会
    - R09 第82回旭川大会
    - R10 第83回十勝・帯広大会（仮）
  - (6) 役員選考結果報告
5. 顧問委嘱

委員長委嘱人事【常任委員・事務局・会計局・各部他】

委 嘱 名		氏 名	所 属	継/新
常任委員 12名	常任委員	鈴木 洋伸	旭川:永山中・校長	継
	〃	山田 顕次	上川:下川小・校長	〃
	〃	野口 育子	釧路:標茶小・校長	新
	〃	太田 諭	釧路:中茶安別小中・教頭	継
	〃	山本 佳子	函館:深堀小・校長	新
	〃	潮田 信	北見:西小・校長	継
	〃	石成 牧子	空知:赤平中・校長	〃
	〃	白井 将之	十勝:上浦幌中・校長	〃
	〃	磯島 紀代恵	札幌:白楊小・校長	〃
	〃	猪股 嘉洋	札幌:新陵小・校長	〃
	〃	三分一 晶	札幌:日照中・校長	〃
	〃	渡部 浩士	札幌:新川西中・校長	新
事務局 6名	事務局次長(局長補佐)	大田 利幸	陵北中・校長	継
	事務局次長	村上 智樹	癸寒西小・校長	〃
	〃	田中 義直	癸寒南小・校長	〃
	〃	横道 幸紀	真駒内中・校長	〃
	〃	唐澤 俊樹	手稲東小・校長	〃
	〃	亀田 和人	八軒小・校長	新
会計局 2名	会計局次長	西村 裕子	西野小・校長	継
	〃	小菅 猛雄	新癸寒小・校長	〃
各部 12名	庶務部 部長	大久保 康	美香保小	継
	副部長	齊藤 優太	北光小	新
	〃	富岡 亜希子	北都中	〃
	研究部 部長	中島 大輔	教育大附属小	新
	副部長	後藤 卓	幌南小	〃
	〃	鈴木 真之介	教大附属札幌中	〃
	情報部 部長	紺野 翔太	屯田北中	〃
	副部長	伊藤 健士郎	明園小	継
	〃	加賀 一	開成中等	〃
	小中学部 部長	新井 拓	教育大附属中	新
	副部長	黒澤 英靖	教育大附属小	〃
	〃	佐々木 康平	厚別中	〃
地区委員(新)	釧路地区	土蔵 辰弥	釧路:遠矢中	新

月	事業	備考
4	異動状況の把握、委嘱状の作成・発送 事務局会 4/9 拡大委員会 4/21	
5	事務局会・正副部長会 5/15 連盟役員会・常任委員会・懇親会 5/18 全中国研理事会 5/23(東京) 事務局会5/28	理事派遣
6	全小国研理事会 6/15(東京)	理事派遣
7	全道大会二次案内発送	
8	札幌大会紀要原稿締切 8/23 「宇宙の日」作文コンクール	
9	事務局会・正副部長会 9/2 機関紙178号発行 札幌大会全大会 9/10 第68回読売全国小・中学校作文コンクール審査 第24回どうしん私とぼくの小学生新聞グランプリ審査	
10	札幌大会運営担当者会 10/4 札幌大会前日準備 10/10 連盟役員会 10/11 第74回全道大会札幌大会 10/11 大会レセプション開催・研究紀要発行 北方領土中学生作文コンクール 事前審査	
11	第48回全中国研東京大会11/14・15 全道大会に関わる報告書提出(道教委・後援機関など) 事務局会・正副部長会11/18 第49回全小国研京都大会11/21・22	理事派遣 理事派遣
12	令和元年度「青少年に夢と希望を」作文コンクール審査 第64回全道学校書道展表彰式 11/30 北方領土中学生作文コンクール選考会	
1	第72回記念北海道学生書道展覧会表彰式 1/5	
2	事務局会・正副部長会 2/17 研究収録発行・発送作業	
3		

#### <後援事業>

- ① 第64回全道学校書道展 (主催 北海道書道教育連盟、毎日新聞北海道支社)
- ② 第72回北海道学生書道展覧会(主催 北海道書道教育連盟、北海道新聞社)

#### <協賛(広告)>

- ① 北海道通信社

#### <協力>

- ① 第68回全国小・中学校作文コンクール(主催 読売新聞社)
- ② 第24回どうしん私とぼくの小学生新聞グランプリ(主催 北海道新聞社、他)
- ③ 令和元年度「青少年に夢と希望を」作文コンクール(主催 北海道教育振興会)
- ④ 令和元年度「宇宙の日」作文コンクール(主催 札幌市青少年科学館)
- ⑤ 「北方領土」中学生作文コンクール(主催 北海道庁)

# 結 果 報 告

## 1 大会参加者

① 一般参加者	366名	(学生14名含む)
② 提言者・授業者	48名	
③ 助言者	29名	
計	443名	

## 2 授業・提言

① 小学校	10授業	19提言
② 中学校	6授業	12提言

## 3 京都女子大学発達教育学部 教授 水戸部 修治 様からのコメント

(若松大会長へのメールから転載)

これほど盛会の大会はなかなかないものと存じました。授業や御提案、そして大会運営のご準備と札幌、北海道の先生方の変わらぬ熱意を強く感じました。

指導講話の評判が良かったとのことで安心いたしました。一方的な講演ではなく、大変よく練られた企画が効果を発揮したものと存じます。私も大変良い経験になりました。改めて心より御礼申し上げます。

懇親会でも先生方と色々お話することができて大変うれしく思いました。

## 4 成果と課題

### 【成果】

- ・前回の札幌大会（平成25年度）で組織された研究体制を継続した、日常的な学習会（月例会）の取組を大会につなげることができた。
- ・委員長主導のもと、働き方改革も意図したコンパクトな取組や運営が効果的に行われた、より負担感のない大会運営となった。
- ・水戸部教授の講話は一方向からのお話ではなく、代表者による質疑応答形式を取り入れることで、より分かりやすく身近に感じることができる時間となった。

### 【課題】

- ・今後も、継続的な研究体制や組織の確立が求められる。そこには更なる小中のつながりを意識した視点が必要となる。
- ・今大会はベテランの力に頼る面が多かった。新しい人材や若手が育つ日常的研究活動が重要となる。
- ・研究ならびに大会運営全般にわたって、ICTの積極的活用を進め、全道がより身近になるシステムを構築する必要がある（指導案や資料の事前ネット公開等）。

※以下に連盟研究部からの研究の成果と課題を掲載いたします。

## 結果報告

成果 日常とつながる言語活動と言葉の価値の自覚化

課題 生きて働く言葉の力の評価の在り方

北海道国語教育連盟

研究部長 中島 大輔

### <成果と課題>

研究主題 「言語活動を通して言葉への自覚を高め、言葉の力が身に付く国語科授業の創造」

小学校実践課題 「効果的に位置付く言語活動を通して、言葉の確かさ、豊かさを実感し、実生活に生きる力が身に付く授業」

中学校実践課題 「学び合いが生まれる言語活動を通して、言葉の価値を実感し、未来を切り拓く言葉の力が身に付く授業」

### 成 果

#### (1) 身近から材をとる言語活動と活動場面の具体化

小中合わせて16の公開授業において、目標に合う具体的な言語活動を、公開授業及び提言の形で示すことができた。効果的だったのは、児童・生徒の日常生活や社会生活といった身近なものから材をとることで必要感を高めたことと、活動の導入では、活用場面を想起できるような展開を図ったことである。

#### (2) 児童・生徒が自ら言葉を見つめ直すことで価値の自覚化へ

日常において児童・生徒は、生活の中で当たり前のように言葉を用い、無自覚なことも多い。そこで今大会では、言語活動の中で児童・生徒が立ち止まり、一度言葉に向き合っていくような手立てを講じた。その結果、見方・考え方を働かせながら、言葉を読み返したり選び直したり、あるいはよりよいものに変えたりして、自分自身の活動目標へとせまっていこうとする姿へとつながった。そして言葉の効果や価値に目を向け、言葉の力に自覚的になることができていた。

#### (3) 小中の連携の推進

小学校と中学校で連携し、研究主題及び実践課題の設定、各分科会の実践課題の検討、それらを明快に主張できる指導案形式の検討を行うことができた。我々は、義務教育9年間、さらには高校を含めた12年間の学びの積み上げを目指しており、上記のような研究推進によって、児童・生徒が小学校から螺旋的・反復的に繰り返しながら言語活動に取り組み、資質・能力の定着を図っていく意思を、連盟会員全員で共有できた。

## 課 題

### (1) 言葉の力の評価の在り方

大会授業及び授業提言では、児童・生徒が単元内で主体的に学ぶ姿や目標に迫っていく姿を主張できたが、一人一人が具体的に力を獲得できたかを見取る授業展開や手法に不足があった。また、単元以外や他の学校生活など、汎用性のある言葉の力として身に付いていたのかについても曖昧な部分があった。さらに、新指導要領から評価規準が3観点となったが、これまでとの評価の在り方の違いを示すまでには至らなかった。生きて働く言葉の力をどう評価し、指導に生かしていくかを考え、授業実践していくことが望まれる。

### (2) 研究の継続

授業者や提言者を含め、研究に協力してくれる若い教員が増え、充実した活動となった。ただ、今後それぞれの授業研究の成果をどう共有し、これからの国語科授業に生かしていくかが重要である。そのための研究体制の仕組みを創らなくてはならない。本連盟としても、札幌地区の継続研究はもちろん、他地区との研究の連携や継承を考えていかなくてはならない。そのための具体的な体制も整える必要がある。

令和元年度 北海道国語教育連盟 一般会計 決算

1 収入

(単位：円)

項 目	R1 予算額	決算額	残額	内 訳
繰越金	618,130	618,130	0	
会 費	690,000	633,000	-57,000	3,000×227
協賛金	250,000	230,000	-20,000	広告料他
学習会	0	0	0	参加料(夏)
基金補助	0	0	0	
雑収入	32	5	-27	銀行利息他
計	1,558,162	1,481,135	-77,027	

2 支出

(単位：円)

	項 目	R1 予算額	決算額	残額	主 な 内 訳
事務局費	役員会費	10,000	5,184	4,816	名刺
	常任委員会費	150,000	155,807	-5,807	会場費、旅費補助
	事務局金・正副部長会費	10,000	10,000	0	会場費
	事務用品費	80,000	73,243	6,757	封筒、インク、用紙
	通信・渉外費	200,000	72,528	127,472	発送費(七十周年記念誌等)
	各種旅費補助	175,000	149,340	25,660	全小・全中理事会旅費補助
	講師派遣費	40,000	19,080	20,920	次年度全道大会開催地講師旅費補助
各部活動費	会計局	45,000	17,706	27,294	会費納入案内発送、協賛広告集印刷
	庶務部	10,000	17,172	-7,172	各種案内、委嘱状発送
	組織部	10,000	0	10,000	
	情報部	120,000	80,484	39,516	機関紙印刷・発送、ドメイン変更
	研究部	30,000	3,900	26,100	学習会資料代他
	小学部	15,000	0	15,000	
事業	中学部	15,000	0	15,000	
	学習会	140,000	0	140,000	
その他	分担金	40,778	40,798	-20	全小・全中国研分担金
	広告費	45,000	43,800	1,200	北海道通信広告掲載
	研究大会補助金	260,000	260,000	0	開催地補助、研究集録印刷費補助
	予備費	162,384	0	162,384	
	計	1,558,162	949,042	609,120	

収入決算額 1,481,135  
 支出決算額 949,042  
 差引残額 532,093

【次年度へ繰越 532,093円】

令和2年3月31日  
 以上のように決算いたしました。

監査の結果相違ありません。

会計局長

木村 佳子



会計監査(常任委員)

磯島紀代恵



富田 明好



# 令和2年度 北海道国語教育連盟 全体事業計画（案）

事務局長 葛西 孝之

## 1. はじめに

本連盟は全国の国語科教育の動向に目を向けつつ、全道各地で開催する研究大会を軸に道内の国語教育関係者の力を結集し、北海道の児童・生徒の国語力の向上に資することを事業の目的としている。

今年度は、10月9日（金）に、十勝・帯広において第75回北海道国語教育研究大会を開催する。十勝・帯広大会では、研究主題「言葉への自覚を高め、生きてはたらく言葉の力を育む授業の創造」のもと、昨年（令和元年度）の第74回札幌大会の成果を踏まえた実践的な研究交流と新しい学習指導要領に向けた活発な研究討議が期待される。

今後も、北海道の国語教育を向上・発展させていくために、学習指導要領に示される国語の目標や内容等について共通理解を図り、児童・生徒の国語力の状況を踏まえた実践的な協同研究を推進していく。

また、今後の北海道国語教育連盟としての持続可能な組織の継続と維持を図るため、組織体制のブラッシュアップを図る

## 2. 活動の基本方針

- 1) 北海道国語教育研究大会の成功を期し、文科省や道教委、教育関係諸団体との連携を密にするとともに、研究活動の充実に資する情報交流の活性化に努める。
- 2) 講師派遣の要請に積極的に対応するなど、各地区との連携を深めながら、国語教育の振興と充実に努める。
- 3) 新入会員の確保及び会費納入会員の拡充を図るなど組織強化に努める。
- 4) 国語教育に関わる実践資料の収集や国語教育の振興につながる調査活動に努める。
- 5) 国語教育に関わる新鮮な情報の発信に努め、積極的な広報活動に努める。
- 6) 令和2年度北海道国語教育研究大会の成功に向けて、道内各地との国語研究における連携を深める。
- 7) その他

## 3. 本年度の主な事業内容

- 1) 第75回北海道国語教育研究大会十勝・帯広大会の開催
- 2) 全道常任委員会・大会会員総会の開催
- 3) 各種研究大会・研修会への参加及び派遣
- 4) 機関紙及びホームページの充実
- 5) 日常の研究実践資料の収集・提供
- 6) 組織体制のブラッシュアップを図る⇒6部体制から4部体制への組織改革

### 【全道大会等の開催地】

- 令和2年度（第75回）十勝・帯広大会
- 令和3年度（第76回）上川・旭川大会
- 令和4年度（第77回）釧路大会
- 令和5年度（第78回）空知大会
- 令和6年度（第79回）函館大会
- 令和7年度（第80回）札幌大会
- 令和8年度（第81回）オホーツク大会
- 令和9年度（第82回）旭川大会
- 令和10年度（第83回）十勝・帯広大会（仮）



## 事務局活動計画（案）

事務局長 葛西 孝之

### 1. 運営方針及び業務内容

北海道の小中学校における国語教育の振興と充実に資するために次の業務の推進に当たる。

- 1) 活動方針及び活動推進計画の作成と活動報告に関すること
- 2) 組織や事業の維持向上に関すること
- 3) 各地区組織との連携や連絡調整に関すること
- 4) 各局・各部の活動を推進していく上での連絡調整に関すること
- 5) 役員会、事務局会、常任委員会、大会会員総会等の開催に関すること
- 6) 関係機関(文科省、道教委、市教委、各教育局等)、他団体との連携に関すること
- 7) 関係機関、他団体への派遣に関すること
- 8) その他

### 2. 担当者及び主な業務内容

事務局長	葛西 孝之	柏中		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局の統括</li> <li>・後援事業、依頼報告の業務</li> <li>・諸会議の開催</li> <li>・各地区事務局との業務連携</li> </ul>
事務局長補佐	大田 利幸	陵北中		<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸会議開催(案内・年間計画)実務</li> <li>・常任委員会等の準備</li> </ul>
事務局次長	田中 義直 横道 幸紀	発寒南小 真駒内中	小中学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学部の事業支援(学習会等)</li> </ul>
	唐澤 俊樹	手稲東小	情報部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報部の事業支援 (HP、会報等)</li> <li>・HPの更新、会報等の作成と情報発信</li> </ul>
	村上 智樹 亀田 和人	発寒西小 八軒小	研究部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全道研究大会及び各地区研究支援</li> </ul>
会計局次長	西村 裕子 小菅 猛雄	西野小 発寒小	庶務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織部の事業支援</li> <li>・案内状、委嘱状等の発送業務</li> <li>・会議等の受付諸準備</li> <li>・全道大会参加集約</li> </ul>

### 3. その他業務の担当者

- 1) 全小国研 北海道代表理事 西村 裕子      全小国研 北海道事務局 村上 智樹
- 2) 全中国研 北海道代表理事 大田 利幸      全中国研 北海道事務局 横道 幸紀

### 4. 年間推進計画

別紙参照

令和2(2020)年度 北海道国語教育連盟 諸会議年間計画

20200516版

4月			5月			6月			7月			8月			9月		
1	水		1	金		1	月		1	水		1	土		1	火	
2	木		2	土		2	火		2	木		2	日		2	水	
3	金		3	日	憲法記念日	3	水		3	金		3	月		3	木	
4	土		4	月	みどりの日	4	木		4	土		4	火		4	金	
5	日		5	火	こどもの日	5	金		5	日		5	水		5	土	
6	月	小・中 始業式 小 入学式	6	水	振替休日	6	土		6	月		6	木		6	日	
7	火	中 入学式 事務局会①	7	木		7	日		7	火		7	金		7	月	事務局会③ 正副部長会③
8	水		8	金		8	月		8	水		8	土		8	火	
9	木		9	土		9	火		9	木		9	日		9	水	
10	金		10	日		10	水		10	金		10	月	山の日	10	木	
11	土		11	月		11	木		11	土		11	火		11	金	
12	日		12	火		12	金		12	日		12	水		12	土	
13	月		13	水	事務局会・正副 部長会②…中止	13	土		13	月		13	木		13	日	
14	火		14	木		14	日		14	火		14	金		14	月	
15	水		15	金		15	月		15	水		15	土		15	火	
16	木		16	土	役員会・常任委 員会…中止	16	火		16	木		16	日		16	水	
17	金		17	日		17	水		17	金		17	月		17	木	
18	土	正副部長会① 拡大委…中止	18	月		18	木		18	土		18	火		18	金	
19	日		19	火		19	金		19	日		19	水	2学期始業式(小)	19	土	
20	月		20	水		20	土		20	月		20	木		20	日	
21	火		21	木	(全中国研理事 会…中止)	21	日		21	火		21	金		21	月	敬老の日
22	水		22	金		22	月		22	水	1学期終業式 (小中)	22	土		22	火	秋分の日
23	木		23	土		23	火		23	木	海の日	23	日		23	水	
24	金		24	日		24	水		24	金	スポーツの日	24	月	2学期始業式 (中)	24	木	
25	土		25	月		25	木		25	土		25	火		25	金	
26	日		26	火		26	金		26	日		26	水		26	土	
27	月		27	水		27	土		27	月		27	木		27	日	
28	火		28	木		28	日		28	火		28	金		28	月	
29	水	昭和の日	29	金		29	月		29	水		29	土		29	火	
30	木		30	土		30	火		30	木		30	日		30	水	
			31	日					31	金		31	月				
※夏の学習会は、今年 度行わない。																	

令和2(2020)年度 北海道国語教育連盟 諸会議年間計画

20200516版

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1	木	1	日	1	火	1	金 元旦	1	月	1	月
2	金	2	月	2	水	2	土	2	火	2	火
3	土	3	火 文化の日	3	木	3	日	3	水	3	水
4	日	4	水	4	金	4	月	4	木	4	木
5	月	5	木 全中国研山口大会	5	土	5	火	5	金	5	金
6	火	6	金 全中国研山口大会	6	日	6	水	6	土	6	土
7	水	7	土	7	月	7	木	7	日	7	日
8	木	8	日	8	火	8	金	8	月	8	月
9	金 第75回十勝・帯広大会…中止	9	月	9	水	9	土	9	火	9	火
10	土	10	火	10	木	10	日	10	水	10	水
11	日	11	水	11	金	11	月 成人の日	11	木 建国記念日	11	木
12	月	12	木	12	土	12	火	12	金	12	金
13	火	13	金	13	日	13	水	13	土	13	土
14	水	14	土	14	月	14	木	14	日	14	日
15	木	15	日	15	火	15	金 3学期始業式(中)	15	月 事務局会⑤ 正副部長会⑤	15	月 卒業式(中)
16	金	16	月 事務局会④ 正副部長会④	16	水	16	土	16	火	16	火
17	土	17	火	17	木	17	日	17	水	17	水
18	日	18	水	18	金	18	月	18	木	18	木
19	月	19	木	19	土	19	火	19	金	19	金
20	火	20	金	20	日	20	水 3学期始業式(小)?	20	土	20	土 春分の日
21	水	21	土	21	月	21	木	21	日	21	日
22	木	22	日	22	火	22	金	22	月	22	月
23	金	23	月 勤労感謝の日	23	水	23	土 ※冬の学習会?	23	火 天皇誕生日	23	火 卒業式(小)
24	土	24	火	24	木	24	日	24	水	24	水
25	日	25	水	25	金 2学期終業式(小中)	25	月	25	木	25	木 修了式(小・中)
26	月	26	木	26	土	26	火	26	金	26	金
27	火	27	金	27	日	27	水	27	土	27	土
28	水	28	土	28	月	28	木	28	日	28	日
29	木	29	日	29	火	29	金			29	月
30	金	30	月	30	水	30	土 ※冬の学習会?			30	火
31	土			31	木	31	日			31	水

## 令和2年度 北海道国語教育連盟 事務局・会計局・各部 年間業務内容一覧

	事 務 局	会 計 局	庶 務 部
4 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新年度連盟役員・委員名簿の作成と委嘱状の発送                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・在札役員会で、役員・事務局・正副部長等を決定</li> <li>・事務局と組織部・庶務部で異動名簿を基に名簿の作成</li> <li>・在札役員で分担し、各委員へ受諾の打診</li> <li>・委嘱状の作成及び発送（事務局・庶務部）</li> </ul> </li> <li>○拡大委員会の開催                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・各局及び各部の資料の綴じ込み（事務局・庶務部）</li> <li>・常任委員会及び懇親会の役割分担や準備手順の確認</li> <li>・常任委員会及び懇親会の案内発送（事務局・庶務部）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※連盟派遣講師・理事会等の旅費</li> <li>各種配付物郵送費は随時</li> <li>※広告料等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動計画作成                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大委員会、常任委員会等の案内発送</li> </ul> </li> <li>○委嘱状の作成・発送</li> <li>○新規会員勧誘文書の作成</li> <li>○会費納入依頼文書の作成</li> </ul>
5 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○正副部長会・庶務部会の開催                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・常任委員会の資料の綴じ込み</li> <li>・常任委員会の出欠確認やしおり作成</li> <li>・常任委員会の標示物や胸札等の作成状況の確認</li> <li>・常任委員会進行の最終確認</li> </ul> </li> <li>○常任委員会及び懇親会の運営                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・会場の設営（受付・机上の名札・一文字等）</li> <li>・当日の司会</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○会計報告</li> <li>○予算立案</li> <li>○年間活動計画の作成（常任委員会で提案）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究大会開催地への補助支給</li> <li>・旅費補助支給</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○常任委員会・懇親会の準備作業                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の帳合、名札、標示物等の作成</li> </ul> </li> <li>○常任委員会・懇親会の受付業務</li> </ul>
6 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事務局会・正副部長会の開催                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・全道大会へ向けての準備（大会委嘱状や第2次案内等）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○郵送の封筒作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○会費納入振込用紙作成・郵送による会員募集</li> </ul>
7 ・ 8 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全道大会参加調査票の発送・第1次集約                             <ul style="list-style-type: none"> <li>（対象：在札役員・常任委員・正副部長・部員）</li> </ul> </li> <li>○機関紙等の発送（事務局・庶務部・情報部）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全小国研、全中国研負担金の支払い</li> <li>○機関紙印刷代、郵送代</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全道大会参加体制づくり開催</li> <li>○全道大会2次案内発送作業</li> </ul>
9 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事務局会・正副部長会の開催                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・大会参加体制確認集約</li> <li>・参加要領等の確認</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○連盟会費納入の案内</li> <li>○全道大会用会員募集文書の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全道大会参加者集約作業</li> <li>○機関紙発送作業</li> </ul>
10 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全道大会（十勝・帯広 10月9日）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・連盟役員会の運営</li> <li>・大会会員総会の運営</li> <li>・感謝状の準備</li> <li>・礼状発送</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全道大会・会費徴収・各種打合せ等旅費・会員募集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全道大会参加者集約</li> </ul>
11 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全小国研（10月8-9日 北九州）</li> <li>○全中国研（11月5-6日 山口）</li> <li>○全道大会の事後作業（大会報告・機関紙作成着手）</li> <li>※全小国研、全中国研、十四大都市中国研等の集約</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ドメイン名維持料の支払い（連盟HP）</li> <li>○研究収録作成代補助・郵送代</li> </ul>	
12 1 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事務局会・正副部長会の開催                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業報告会に向けて</li> <li>・大会研究集録等の発送</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○会費納入状況の確認・会員募集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全道大会研究集録の発送作業</li> </ul>
2 ・ 3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事務局会・正副部長会の開催                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・各局、各部の年間活動計画</li> <li>・新年度の活動計画案作成へ向けて</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年度反省次年度方針</li> <li>○会計業務の集約</li> <li>○会計監査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動報告等作成、年度反省</li> </ul>

## 令和2年度 北海道国語教育連盟 事務局・会計局・各部 年間業務内容一覧

	研 究 部	情 報 部	小 中 学 部
4 月	○活動計画の作成	○業務内容の作成と共通理解	○年間活動計画の作成
5 月	○役員会、常任委員会で年間計画・研究主題等の提案 今年度札幌大会での授業・提言内容の提案	○機関紙編集会議 ・ページ割付検討 ・執筆者選定 ○HP 検討会議 ・内容検討、HP 更新	○役員会、常任委員会で年間計画の提案と各地区研究の把握
6 月	○各地区との情報交流・学習会	○機関紙編集会議 ・原稿執筆者へ依頼状発送 ・機関紙原稿編集作業開始 ・印刷会社とのスケジュール確認 (会計局との連携) ※HP 随時更新	○各地区の情報収集・交流
7 ・ 8 月	○各分科会との情報交流 大会への参加体制作り ○各地区との情報交流	○機関紙編集会議 ・原稿集約第一校入稿 ・第二校入稿（8月下旬） ※HP 随時更新 ○学習会の取材 資料更新	○各地区の情報収集・交流
9 月	○全道大会への参加体制づくり	○機関紙編集会議 ・機関紙最終チェック ・機関紙発送（庶務部と連携） ※HP 随時更新	○全道大会への参加体制確認
10 月	○全道大会開催 ○大会会員総会	○全道大会関係業務 ・大会取材、記録 ・HPにて広報	○全道大会参加・各地区の研究推進 ○研究の動向・内容の把握と交流
11 月	○次年度大会へ向けての研究推進	○全道大会HPに資料更新 ○HP 検討会議 ・来年度に向けて検討	○研究の成果と反省集約
12 1 月	○研究のまとめ	○機関紙に関わる反省	○各地区の情報収集・交流
2 ・ 3 月	○年度反省・次年度推進計画構想	○今年度の取組についてのまとめ ○次年度に向けての年間計画作成着手	○年度反省、年間活動報告の作成と報告 ○次年度研究計画の立案

## 会計局 活動計画 (案)

### 1 担当者

局長 木村 佳子  
【札幌市・中央中】  
次長 西村 裕子  
【札幌市・西野小】  
次長 小菅 猛雄  
【札幌市・新発寒小】

### 2 業務

#### (1) 予算の立案と執行

① 各部と連携して、適切な会計業務を行う。

#### (2) 会費徴収

① 常任委員会、学習会、研究大会などの際に、庶務部と協力して会費徴収を行う。

② 会費納入依頼文書と郵便振込用紙の発送を行う。

③ 必要に応じて督促を行い、会費納入率を上げる。

#### (3) 協賛金の依頼

① 研究大会広告掲載等の依頼を行い、財源を確保する。

② 必要に応じて研究大会時に協賛広告集の作成をする。

#### (4) 会員名簿作成

① 各地区委員、組織部、情報部と協力して、異動状況を把握する。

② 事務局と連携して、名簿作成を迅速に行う。

### 3 年間計画

4月	名簿作成、活動計画・予算案作成、会費徴収（諸会議）	会計業務
5月	連盟名簿完成、会費徴収（常任委員会：R2年度は中止）	
6月	会費納入依頼文書等の作成・発送	
7月	郵便振込による会費納入開始、協賛金の依頼	
8月	会費徴収（夏の学習会：R2年度は中止）	
10月	会員徴収（北海道国語教育研究大会十勝大会）	
11月	会費納入状況把握 会費督促文書の発送	
12月	大会研究収録送付会員の把握	
1月	会費督促、会費徴収（冬の学習会）	
2月	年度反省・次年度の方針の検討、	
3月	会計決算、会計監査、会員異動調査	↓

令和2年度 北海道国語教育連盟  
庶務部活動計画(案)

庶務部長 大久保 康

1. 担当

部長	大久保 康 (美香保小学校)
副部長 (小)	齊藤 優太 (北光小学校)
副部長 (中)	富岡 亜希子 (北都中学校)
部員 (小)	都築 典子 (本通小学校)
同	井内 美里 (新琴似緑小学校)
同	守屋 洋佑 (山鼻小学校)
同	桑村 優里 (幌南小学校)
同	江渡 恵子 (宮の森小学校)
同	石川 容子 (八軒東小学校)
部員 (中)	菅又 隆之 (日章中学校)

2. 業務と分担

庶務部は各部の業務が円滑に進められるように連絡、調整、支援に当たることで、国語連盟の諸活動が組織として成果が上がるように活動することを主な業務とする。

○業務

- ① 庶務部活動計画の作成
- ② 総会・常任委員会・役員会等の開催に係る事務的業務
- ③ 総会・常任委員会決定事項についての関係者・機関への情報提供
- ④ 正副部長会議等に係る事務的業務
- ⑤ 委嘱・派遣などに係る事務的業務
- ⑥ 各地区組織、各部活動、他団体との連絡・調整に係る事務的業務
- ⑦ 連盟事業活動(機関誌含む)に係る文書の收受、作成、発送、保管
- ⑧ 会員募集(・会員募集文章作成、発送・大会時等における新規会員募集)
- ⑨ 年度末の異動に関わる会員の動向調査
- ⑩ 組織確立
- ⑪ 他の部に属さない業務  
(全道大会参加体制づくり、懇親会の企画・運営、連盟業務の効率化と経費節約に関する調査・改善等)

○分担

- ※①～⑤及び⑧は部長が所轄し、副部長が担当する。
- ※⑥は副部長(中)が所轄し、中学校部員が主に担当する。
- ※⑦は副部長(小)が所轄し、小学校部員が主に担当する。

3. 年間推進計画

4 月	活動計画案作成 拡大委員会案内状作成・発送 委嘱状の作成・発送 常任委員会案内状作成・発送
5 月	常任委員会・懇親会準備 常任委員会懇親会の受付業務(当日) 会員募集、会費徴収、新規会員勧誘文章の作成
6 月	十勝・帯広大会第2次案内発送
7 月	
8 月	
9 月	
10月	第75回北海道国語教育研究大会十勝・帯広大会開催(9日)
11月	
12月	
1 月	
2 月	十勝・帯広大会研究集録発送業務 年度反省(活動報告作成)



## 1 担当者

部長 中島 大輔 (北海道教育大学附属札幌小学校)  
副部長 鈴木 真之介 (北海道教育大学附属札幌中学校)  
後藤 卓 (札幌市立幌南小学校)

### 部員 <小学校>

渡部 伸野 (札幌市立北光小学校)  
高桑 陽子 (札幌市立幌西小学校)  
松岡 佑 (札幌市立手稲北小学校)  
安尻 太郎 (札幌市立西岡小学校)

### <中学校>

森山奈緒子 (市立札幌開成中等教育学校)  
山上 史織 (札幌市立啓明中学校)  
松森 亮介 (札幌市立屯田北中学校)

## 2 業務内容 (括弧内は主担当)

- ① 研究主題及び副主題の設定、研究活動の推進 (中島・鈴木・後藤)
- ② 研究大会の計画及び運営 (中島・鈴木・後藤)
- ③ 学習会による全市・全道への研究活動の発信 (高桑・安尻・森山・山上)
- ④ 全国の研究団体との交流及び研究動向の調査 (渡部・松岡・松森)
- ⑤ 全道や全国での研究会・研修会等の講師派遣 (窓口：中島)

## 3 業務内容の具体

### ① 研究主題及び副主題設定、研究活動の推進 (中島・鈴木・後藤)

#### 研究主題による良質な国語科授業の創造・展開

研究推進部では、研究主題及び副主題を設定し、授業実践を通して検証しながら、成果と課題を集積する形で研究活動を進める。成果と課題を次の授業実践に反映させ、より良質な国語科授業を創造・展開できるようにしていくことで、北海道の児童・生徒の国語力向上を目指す。

#### 「不易と流行」そして各地区の熱意を集約して

主題設定では、これまでの研究成果を継承しつつ、新しい国語科教育が目指すものを踏まえ、「不易と流行」を大切にする。さらに、全道各地区の「北の国語人」の熱意を集積しながら、北海道の国語教育を高められるよう、主題の価値を授業実践と併せて発信していく。

#### 学習会と研究大会を通して推進する

前述の通り、研究主題及び副主題について授業実践を通して検証していく。各地区の学習会や研究大会の活動推進に寄与し、成果と課題を集積できるようにする。その際、各地区の研究部や研修部と連携を取りながら進めていけるようにする。

#### 今年度の研究主題について

言語活動を通して言葉への自覚を高め、言葉の力が身に付く国語科授業の創造  
(仮)

※札幌大会の成果と課題を踏まえ、現在検討中。



「言語活動を通して」…良質な言語活動を通して資質・能力を育成する。良質な言語活動とは、児童・生徒が学ぶことに期待や意欲がわいたり、学ぶことへの意味を明確にもったりできるような仕掛けがあることが欠かせない。そして、児童・生徒の学びの方向が指導事項を身に付けることと一致する活動である。

「言葉への自覚を高め」…児童・生徒が、言葉の持つ価値について言語活動を通して実感し、言葉への自覚を高めることで、日常に生きて働く力となることをねらう。

「言葉の力が身に付く」…私たちが求めるのは、次のような姿である。①言葉を通して正確に意図や内容を理解したり、言葉を適切に表現したりする姿。②言葉を駆使して考えを形成する姿。③言葉を通じて人と社会と関わり自他の存在についての理解を深め、豊かな社会性を身に付ける姿。「言葉の力が身に付く」とは、そのような姿であり、言語活動、とりわけ「実の場」を通してそのような姿にせまっていこうとねらう。

② 研究大会の計画及び運営（中島・鈴木・後藤）

③ 学習会による全市・全道への研究活動の発信（高桑・安尻・森山・山上）

全道大会や各地区の研究大会においては、開催地区の研究成果を継承しながら、各地区の研究部と連携を取りながら計画及び運営に当たる。学習会については、本連盟の研究主題及び副主題、授業実践の成果や課題を広く発信できるよう、各地区で適宜設定し、運営に当たる。その際、小中学部や各地区の研修部と連携を取りながら進める。

④ 全国の研究団体との交流及び研究動向の調査（渡部・松岡・松森）

⑤ 全道や全国での研究会・研修会等の講師派遣（窓口：中島）

全道の研究団体はもちろん、全国の研究団体とも積極的に交流を図り、各地の研究動向をつかむようにする。さらに、全国へ本連盟の研究内容を積極的に発信する。そのために、提言発表者や講師等の派遣依頼があった場合は、事務局の助言を受けながら、人選に当たる。

#### 4 年間計画（通常）

月	全道	札幌地区
4月	研究部活動計画（案）の作成・提案 全道大会・全国大会の提言者決定 全道各地への講師派遣者選定	札幌地区研究大会の授業者決定
5月	役員会、常任委員会での年間計画及び研究主題（仮）の提案 各地区との研究推進計画の打合せ	月例学習会のチーフと研究内容の打合せ
6月	夏の学習会の講師及び発表者の選定	
7月	夏の学習会（小中学部と連携）	
8月	全道大会開催地との連絡調整	札幌地区研究大会の会場校との連絡調整
9月	全道大会開催地との最終調整	札幌地区研究大会の担当部会との連絡調整
10月	全道大会開催 国語教育連盟総会	
11月	全道大会のまとめ	札幌地区研究大会開催
12月	全道大会のまとめ	札幌地区研究大会のまとめ 冬の学習会発表者の決定
1月		冬の学習会（小中学部と連携） ※札幌地区研究大会の担当部会以外による発表
2月	年度反省	冬の学習会のまとめ
3月	次年度の研究活動計画の素案作成 次年度全道大会の研究推進の連絡調整	次年度札幌地区研究大会の授業担当部会と授業者仮決定

5 年間計画（今年度） ※札幌地区研究大会の立ち上げと新型コロナウイルス感染症対応による

月	全道	札幌地区
4月	研究部活動計画（案）の作成・提案 全道大会・全国大会の提言者決定 全道各地への講師派遣者選定	札幌地区研究大会の概要提案
5月	役員会、常任委員会での年間計画及び研究 主題（仮）の提案 各地区との研究推進計画の打合せ	月例学習会のチーフ決定 <b><u>オンライン会議による研究推進</u></b> <b><u>（月例会にも適用可能か検討）</u></b> <b><u>家庭での国語力向上プロジェクト始動</u></b> <b><u>（情報部運営のHPを活用）</u></b>
6月		<b><u>オンラインによる研修活動</u></b> <b><u>家庭での国語力向上プロジェクト始動</u></b>
7月	夏の学習会（今年度は中止） <b><u>※オンライン学習会の可能性検討</u></b>	
8月	全道大会開催地との連絡調整	
9月	全道大会開催地との最終調整	月例会の活動スタート（小中学部の所管） <b><u>※オンライン月例会の可能性検討</u></b>
10月	全道大会・国語教育連盟総会（予定）	
11月	全道大会のまとめ	札幌地区研究大会の計画確定
12月	全道大会のまとめ	冬の学習会発表者の決定
1月		冬の学習会（小中学部と連携） <b><u>※札幌地区研究大会の計画提示</u></b>
2月	年度反省	冬の学習会のまとめ
3月	次年度の研究活動計画の素案作成 次年度全道大会の研究推進の連絡調整	次年度札幌地区研究大会の授業担当部会と 授業者仮決定

※2 学期以降も新型コロナウイルス感染症の影響が大きいようなら、「家庭での国語力向上プロジェクト」「オンライン月例会」を継続して取り組むことも視野に入れる。

6 札幌地区研究大会について ※後日詳細提案

7 「家庭での国語力向上プロジェクト」「オンライン月例会」について ※後日詳細提案

## 情報部活動計画（案）

### 1. 担当者

部長	(中) 紺野 翔太	札幌市立屯田北中学校
副部長	(小) 伊藤 健士郎	札幌市立明園小学校
	(中) 加賀 一	市立札幌開成中等教育学校
部員	(小) 香川 寛樹	札幌市立厚別北小学校
	(小) 櫻井 渉	札幌市立西園小学校
	(小) 難波 駿	札幌市立新川中央小学校
	(小) 北 風太	札幌市立盤溪小学校
	(小) 鈴木 智史	札幌市立中央小学校
	(中) 笹山 和也	札幌市立新琴似中学校
	(中) 窪田 貴文	札幌市立新川中学校

### 2. 業務内容

#### <基本方針>

- ・各部から寄せられた活動内容や連絡事項及び研究会などの案内や情報などを、機関紙やHPに掲載することで、国語教育連盟の活動を北海道の会員及び国語教育に関心をもつ方々に広く情報を提供していくことを主な業務とする。
- ・機関紙やHPを通して、北海道の連盟各地区との連携や交流を充実させていく。
- ・研究部と連携し、各種調査に関わる情報処理を担当する。

#### ❖部長

- ・情報部統括，他の部との連絡調整
- ・機関紙及びHPの企画立案統括
- ・編集会議の立案・運営・派遣依頼

#### ❖副部長

- ・機関紙関係・・・企画，原稿依頼及び依頼文書発送，玉稿礼状の発送
- ・HP関係・・・企画，取材，運営の推進
- ・機関紙記録保管
- ・機関紙等の印刷業者対応

#### ❖部員

- ・機関紙の取材・編集・校正
- ・HPの取材・作成・更新
- ・各種調査の情報処理

### 3. 推進計画及び日程

#### ●機関紙関係

(1) 機関紙第 <u>179</u> 号の企画編集会議	令和2年	5月中旬
原稿取材依頼	令和2年	6月中旬
原稿編集校正	令和2年	7月下旬
原稿締め切り	令和2年	8月上旬
印刷業者入校	令和2年	8月中旬
(2) 機関紙第 <u>179</u> 号の発送	令和2年	9月中旬予定

●HP 関係

HP の編集会議	令和 2 年	5 月中旬	(機関紙班と合同)
HP の主な更新	令和 2 年	5 月	常任委員会
	令和 2 年	8 月	夏季学習会 (予定)
	令和 2 年	10 月	札幌大会

※編集会議終了後、研究大会第 1 次案内・2 次案内・申込書、指導案や授業資料等、地区の情報、学習会資料等の情報を収集・整理して随時更新していく。

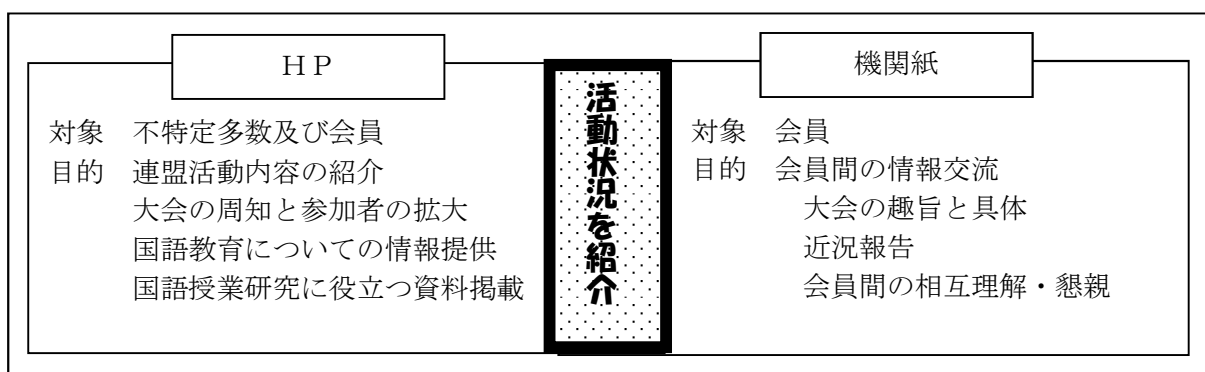
※会員の情報変更は掲示板や連盟メールアドレスを適切に管理する。

※その他、適宜事務局との連携を図って更新業務を行う。

●各種調査の情報処理

(あれば) 研究部の計画に沿って行う。

4. 機関紙及び HP の役割とその内容



1 機関紙の役割

①会員だからこそ欲しい情報を提供

★ニーズにあった情報

→現役会員には研究に役立つ情報を、OB 会員には研究情報に合わせて連盟活動の近況報告を

②国語研究人だからこそ欲しい情報を提供

★各地区からの実践を幅広く掲載することで研究情報の共有

★研究大会の詳細 (研究主題解説、分科会の内容)

③世代をつなぐ役割を

★現役間、現役←→OB 間で交流を深める

④会員間の親睦を深める

★会員の紹介

2 HP の役割

①不特定多数に提供すべき情報の発信

★連盟の活動内容の紹介

→大会の情報 (開催の趣旨・開催地・開催時期等) を提供することにより参加者の拡大をねらう

→活動状況 (各地区の活動紹介) OB 会員には 研究に役立つ情報と活動の近況報告を

②国語研究団体として国語教育に関心のある方々へ情報を提供 (会員ページ)

★会員ページの充実を図る (情報変更にかかる掲示板設置)

→指導案やワークシート等の実践紹介

→各地区からの実践を幅広く掲載することで研究情報の共有

→連盟主催の学習会の資料等を掲載

# 令和2年度 小中学部 年間活動計画（案）

- 1. 担当者**
- 部長： 新井 拓（北海道教育大学附属札幌中学校）  
 副部長： 黒澤 英靖（北海道教育大学附属札幌小学校）  
 副部長： 佐々木康平（札幌市立厚別中学校）  
 部 員： 廣川 友太（札幌市立西宮の沢小学校）  
           岡 洋平（札幌市立西白石小学校）  
           畔川 耕一（札幌市立二条小学校）  
           東 陽子（札幌市立八軒小学校）  
           小笠原太郎（札幌市立中央中学校）  
           田中 大地（札幌市立北都中学校）  
           細田 真輝（札幌市立南が丘中学校）

**2. 業務内容**

- (1) 小中学校の研究の企画・推進（研究部との連携）とそのまとめ
- ・業務の推進に当たり、国語科教育における課題と新学習指導要領の動向を意識しつつ、これまでの連盟研究の流れを踏まえ、研究の推進に寄与できるような活動の企画・運営を行う。
- (2) 小中学校の組織の拡充（庶務部との連携）とその活性化
- ・研究の交流と深化、人的な輪の広がりのために、夏の学習会を企画し、連盟研究組織の拡充を図っていく。なお、学習会講師に関しては、研究部と連携して選定準備を行う。
  - ・第75回北海道国語教育研究大会十勝・帯広大会（10月9日）を通じて全道各地との研究や実践の交流を図り、今後の課題と方向性を明らかにする。

**3. 活動計画**

月	活 動 内 容
4月	年間活動計画案の作成
5月	役員会・常任委員会で年間計画の提案
6月	夏の研究交流学習会（札幌大会に向けた講話）へ向けた準備（今年度は中止）
7月	↓
8月	夏の研究交流学習会（今年度は中止） 各地区の情報収集・交流
9月	学習アンケートの集約と事務局への報告 全道・全国大会の運営及び参加体制の確認
10月	第75回 北海道国語教育研究大会（十勝・帯広大会） 全道・全国との交流
11月	大会の成果と課題のまとめ
12月	↓
1月	各地区の情報収集・交流
2月	次年度へ向けた活動計画の見直し
3月	年度反省 年間活動報告書の作成と報告

**4. 札幌地区の取組**

- (1) 月例会の企画・運営
- ・定期的、継続的に学習会を実施することで、協働的に学びを深める場を保障する。
  - ・研究部との連携を図り、札幌の研究を推進する。
  - ・中学校1部会、小学校5部会とし、月1回の開催を基本とする。
  - ・連盟会員以外にも参加を呼びかけ組織の拡充につなげる。
- (2) 冬の学習会の企画・運営（可能であれば実施）
- ・月例会の成果を交流する場として、小学校と中学校それぞれ実践発表を行う。
  - ・研究部との連携を図り、札幌の研究の推進に寄与する。
  - ・連盟会員以外にも参加を呼びかけ、研究の成果を発信する場とする。

## 令和2年度 北海道国語教育連盟 一般会計 予算(案)

## 1 収入

(単位:円)

項目	R1(H31)予算額	決算額	R2予算額	増減	内 訳
繰越金	618,130	618,130	532,093	-86,037	
会 費	690,000	633,000	660,000	-30,000	3,000×220
協賛金	250,000	230,000	250,000	0	広告料他
学習会	0	0	0	0	参加料(夏)
基金補助	0	0	0	0	
雑収入	32	5	10	-22	銀行利息他
計	1,558,162	1,481,135	1,442,103	-116,059	

## 2 支出

(単位:円)

項目	R1(H31)予算額	決算額	R2予算額	増減	主 な 内 訳	
事務局費	役員会費	10,000	5,184	10,000	0	名刺
	常任委員会費	150,000	155,807	10,000	-140,000	会場費、旅費補助、クラウド費用
	事務局会・正副部長会費	10,000	10,000	10,000	0	会場費
	事務用品費	80,000	73,243	80,000	0	封筒、インク、用紙、ラベルシート
	通信・渉外費	200,000	72,528	100,000	-100,000	発送費
	各種旅費補助	175,000	149,340	175,000	0	全小・全中理事会旅費補助
	講師派遣費	40,000	19,080	40,000	0	次年度全道大会開催地講師旅費補助
各部活動費	会計局	45,000	17,706	45,000	0	会費納入案内発送、協賛広告集印刷
	庶務部	10,000	17,172	25,000	5,000	各種案内、委嘱状発送、会員募集案内
	組織部	10,000	0			
	研究部	30,000	3,900	20,000	-10,000	研究資料、部会費
	情報部	120,000	80,484	120,000	0	機関紙印刷・発送、ドメイン変更
	小学部	15,000	0	30,000	0	用紙、会議費
	中学部	15,000	0			
事業	学習会	140,000	0	0	-140,000	会場費 講師謝金 用紙代
その他	分担金	40,778	40,798	40,798	20	全小・全中国研分担金
	広告費	45,000	43,800	45,000	0	北海道通信広告掲載
	研究大会補助金	260,000	260,000	260,000	0	開催地補助、研究集録印刷費補助
予備費	162,384	0	431,305	268,921	基金へ戻入	
計	1,558,162	949,042	1,442,103	-116,059		

北海道教育委員会教育長・各教育局長 様  
 各市町村教育委員会教育長 様  
 国公立小・中学校長 様  
 関係者 様

大会長 若松 広美(北海道国語教育連盟委員長)  
 実行委員長 山田 洋(北海道国語教育連盟副委員長)

# 第75回北海道国語教育研究大会

## 十勝・帯広大会 (一次案内)

- 主催 北海道国語教育連盟
- 主管 十勝・帯広国語教育研究会
- 協力 十勝国語教育研究サークル 帯広市教育研究会国語部会
- 後援 (予定) 北海道教育委員会 十勝管内教育委員会連絡協議会  
 音更町教育委員会 帯広市教育委員会  
 十勝小・中校長会 帯広市校長会 音更町校長会  
 十勝管内小中学校教頭会 帯広市教頭会  
 十勝教育研究所 帯広市教育研究所 十勝管内教育研究サークル協議会  
 帯広市教育研究会 十勝管内PTA連合会 帯広市PTA連合会

### 5 大会研究主題

「言葉への自覚を高め、生きてはたらく言葉の力を育む授業の創造」

6 期日 令和 2年10月 9日(金)

### 7 会場

- 【メイン会場】 音更町立音更中学校
- 【小学校授業会場】 音更町立音更小学校、帯広市立栄小学校、帯広市立啓北小学校
- 【中学校授業会場】 音更町立音更中学校、帯広市立帯広第一中学校
- 【レセプション会場】 IN THE SUITE 〒080-0013 北海道帯広市西3条南11丁目1番地

### 8 指導講話

演題 「 未定 」

講師 杉本 直美 氏 (国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官)

### 9 日程

小学校	9:35	10:20	11:35	13:00	13:35	15:15	15:30	16:50	17:00	19:00	
	受付	公開授業	分科会Ⅰ (授業分科会)	移動 昼食	開会式 (主題解説)	分科会Ⅱ (領域別分科会)	休憩	指導講話	閉会式 (総会)	移動	レセプ
中学校	9:35	10:25	11:35								
	各授業協力校			音更中学校(全体会場)						IN THE SUITE	

9 公開授業(授業分科会)

【小学校】

能力	領域	分科会名	会場	授業者名
知識及び技能	言語 情報 伝統	分科会1	帯広市立啓北小学校	河江 邦教
	言語 情報 伝統	分科会2	帯広市立栄小学校	石垣 雄太
	言語 情報 伝統	分科会3	音更町立音更小学校	松本 美佳
思考力 判断力 表現力 等	話すこと・聞くこと	分科会4	音更町立音更小学校	日水 直樹
		分科会5	音更町立音更小学校	高田三十三
	書くこと	分科会6	帯広市立栄小学校	神谷 美玖
		分科会7	帯広市立栄小学校	井上 浩一
	読むこと	分科会8	帯広市立啓北小学校	田隈 泰邦
		分科会9	帯広市立啓北小学校	高平 昂太

【中学校】

能力	領域	分科会名	会場	授業者名
知識及び技能	言語 情報 伝統	分科会10	帯広市立帯広第一中学校	澤田 賢和
思考力 判断力 表現力 等	話すこと・聞くこと	分科会11	音更町立音更中学校	政所 敬志
	書くこと	分科会12	帯広市立帯広第一中学校	亀谷 直樹
	読むこと	分科会13	音更町立音更中学校	工藤 直樹

10 領域別分科会(音更中学校)

能力	領域	提言者1(十勝)	提言者2(全道)
知識及び技能	言語 情報 伝統	川嶋 翔(豊頃町立豊頃小学校)	三上 恵(岩見沢市立南小学校)
思考力 判断力 表現力 等	話すこと・聞くこと	中村 俊太(芽室町立芽室南小学校)	難波 駿(札幌市立新川中央小学校)
	書くこと	沼田 圭介(帯広市立柏小学校)	堺田 英(白糠町立庶路学園)
	読むこと	安宅 央喜(浦幌町立浦幌小学校)	糸畑 由佳(函館市立神山小学校)
知識及び技能	言語 情報 伝統	小林 京子(芽室町立芽室西中学校)	中村 純平(教育大付属釧路中学校)
思考力 判断力 表現力 等	話すこと・聞くこと	広瀬 拓(本別町立本別中学校)	永井 悦美(旭川市立愛宕中学校)
	書くこと	大久保拓哉(音更町立共栄中学校)	高橋 翔太(札幌市立札幌北中学校)
	読むこと	岸田 喜弘(幕別町立幕別中学校)	高橋謙次郎(北見市立北中学校)

11 大会参加費 5,000円 (学生参加3,000円) ※弁当は別となります。

12 レセプション 1)日時:10月9日(金)19時~ 2)会費:5,000円  
3)会場:「IN THE SUITE」帯広市西3条南11丁目1番地

13 問い合わせ先(大会事務局)

浦幌町立上浦幌中学校 校長 白井 将之(大会事務局長)

〒089-3578 十勝郡浦幌町字宝生164番地4

TEL015-576-6022 FAX015-579-4755

Email [kmur-jhs02@educet04.plala.or.jp](mailto:kmur-jhs02@educet04.plala.or.jp)

※二次案内は7月上旬に発送予定です



## 言葉への自覚を高め、生きてはたらく言葉の力を育む授業の創造

北海道国語教育連盟研究部長	中島 大輔	(北海道教育大学附属札幌小学校)
十勝帯広大会 研究部長	杉澤 諭	(幕別町立白人小学校)
北海道国語教育連盟 副部長	後藤 卓	(札幌市立幌南小学校)
北海道国語教育連盟 副部長	鈴木 真之介	(北海道教育大学附属札幌中学校)

「不易」  
本連盟で  
大切に  
してきたこと

### I. 主題設定にあたって

研究主題設定は、「不易」と「流行」を大切にしながら進めていく。

設定にあたっては、以下の四点を柱とする。

- (1) 過去の北海道国語教育連盟の研究の積み上げを踏まえる
- (2) 新しい国語教育が目指すものを踏まえる
- (3) 前年度開催地区の成果と課題を受け継ぐ
- (4) 開催地区の研究の流れを大切にする

新しい国語教育の動向や方向性を常に見据えながら、昨年度の成果と課題だけでなく、継承してきた研究成果の蓄積や北の国語人としての熱意を集積し、北海道の国語教育を高める研究実践を行い、発信していく。

### II. 四つの柱について

#### (1) 過去の北海道国語教育研究大会の流れを踏まえる

北海道国語教育連盟では、これまで「学ぶ側に立った授業・指導」という考え方を大切に、「児童生徒が自ら獲得する学び」に取り組んできた。個と集団のかかわりの中で一人一人の子どもを大切に、その生き生きとした学び合いの姿を、授業の中で具現化するために、良質な「学習課題」の設定にも尽力してきた。

「学習課題」とは、「教材研究を通して導き出される指導目標や指導事項と子どもの学習活動を結び付けるもの」であり、以下の点に留意して設定されるものである。

- ・ 子どもが学ぼうという意欲をもち、積極的な学習活動を生むもの
- ・ 追究、解決のための具体的な学習活動を導き出すもの
- ・ 追究、解決の過程を通して、指導目標や指導事項の達成、言語能力が高まるものであること
- ・ 子どもの発達段階や特性、能力に応じたものであること

さらに、「はたらきかけ、はたらきかえされ、またはたらきかける」言語活動を通して、「発信する力・受信する力・交信する力」を高めていく実践にも取り組んできた。

これらを「不易」とし、これからの研究にも反映させる。

一方、本連盟の研究主題は、開催地区の研究の歴史と蓄積を生かし、且つ過去の研究大会の成果と課題を踏まえたものとするを基本に設定さ

「不易」  
全道各地区の  
研究の歴史と  
蓄積

れてきた。次に過去の研究主題を挙げる。

2010	函館	「生き生きとした <u>言語活動</u> を通して <u>確かな国語の力</u> をはぐくむ授業の創造」
2011	釧路	「 <u>確かで豊かな言語活動</u> を通して <u>生きて働く言葉の力</u> を育む国語授業の創造」
2012	十勝・帯広	「 <u>生きてはたらく言葉の力</u> を高める授業の創造」
2013	札幌	「自ら <u>言語活動</u> に関わり学び合うことで、 <u>実生活に生きる言葉の力</u> を獲得する授業の創造」
2014	空知・滝川	「 <u>豊かな言語活動</u> を通して <u>確かな国語の力</u> を育む授業の創造」
2015	旭川	「主体的な学びを生み出す <u>言語活動</u> を通して <u>ひびき合う言葉の力</u> を鍛える授業の創造」
2016	網走	「 <u>言語活動の充実</u> を図り、 <u>実生活を豊かにする言葉の力</u> を身に付ける授業の創造」
2017	釧路	「 <u>新たな価値</u> を生み出す国語科授業の創造」
2018	函館	「 <u>実生活に生きてはたらく国語の力</u> を育む授業の創造」
2019	札幌	「 <u>言語活動</u> を通して言葉への <u>自覚</u> を高め、 <u>言葉の力</u> が身に付く国語科授業の創造」

これら連盟の研究の歴史も、「不易」として引き継いでいく。

近年に目を向けると、各大会において受け継がれ、改善を試みられてきたことがある。内容を集約すると以下の通りである。

「流行」  
近年の各大会で  
改善を試みている  
内容を加えて

- 1) 児童生徒一人一人の個性の伸長と豊かな人間性の育成を目指し、学ぶ側に立つ指導・支援を明確にする。
- 2) 基礎・基本の定着を前提とした確かで豊かな言葉の力や、生きて働く国語の力の育成を目指す。
- 3) 児童生徒が主体的に言葉の力を獲得する学習のあり方を模索する。
- 4) 集団の中における伝え合う力を重視し、生き生きとした学び合いを生み出す学習活動を取り入れた授業の創造に取り組む。
- 5) 指導と評価の一体化や自己評価の力等を培う手立てを工夫改善する。

十勝・帯広大会の研究主題も、これらの改善点を踏まえつつ、新たな視点を加えて設定していく。

## (2) 新しい国語教育が目指すものを踏まえる

十勝・帯広大会の行われる今年度は、小学校では新学習指導要領の完全実施の年であり、中学校ではその前年となる。新しい学習指導要領のもと、今求められる授業像を示してほしいという要望は強く、そのことにこたえる大会でありたい。

2015年8月に「論点整理」が示され、翌2016年8月に「審議のまとめ」、同年12月21日に「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の

「流行」  
国語教育の最前線に  
立つ人々の声を聴く

「流行」  
主体的・対話的で  
深い学びのある  
国語科授業を  
目指して

「流行」  
第74回大会の  
成果と課題を  
受けて

学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」が中央教育審議会から出された。そして2017年の3月に新しい学習指導要領が告示された。

連盟ではこれまで、国立教育政策研究所学力調査官・教育課程調査官の黒田諭氏、文部科学省教科調査官・国立教育政策研究所教育課程調査官の杉本直美氏、文部科学省教科調査官の菊池英慈氏、前教育課程調査官・現京都女子大学教授の水戸部修治氏を招き、講演をしていただいた。学習指導要領改訂に大きく関わる方を講師とすることで、新しい国語教育が目指すものを、いち早く研究に取り入れるようにしてきた。本大会でも、新しい国語教育について授業を通して示していきたい。

新学習指導要領の大きな改訂のポイントは、どの教科においても生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養、の三つの柱に基づいて全ての教科の目標や内容が整理されたことである。国語科も、育成すべき資質・能力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と規定し、「知識及び技能」、「思考力、判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に整理してある。このような資質・能力を育成し、生涯にわたって生きて働くようにするための授業改善の視点として、「主体的・対話的で深い学び」が必要であることも同様に示された。

十勝・帯広大会では、この育成すべき資質・能力が児童生徒にしっかりと育まれる手立てを示す大会としたいと考えた。それは「主体的・対話的で深い学び」が生まれるような様々な手立てを発信する大会であり、国語科の授業において、児童生徒の学びが「主体的・対話的で深い学び」になるための授業の在り方について提案する大会である。

### （3）前年度開催地区の成果と課題を受け継ぐ

第74回札幌大会では、以下のような成果と今後の研究の指標が示された。これらは十勝・帯広大会の研究主題設定にも継承されている。

#### <成果>

- ①身近から材をとる言語活動と活動場面の具体化
- ②児童・生徒が自ら言葉を見つめ直すことで価値の自覚化へ
- ③小中の連携の推進

#### <今後の指標>

- ①言葉の力の評価の在り方
- ②研究の継続

これらの成果と指標は、十勝・帯広大会の研究主題や研究内容にも、継承・反映されるだけでなく、今後の研究大会の方向性にも生かされていく。

### （4）開催地区の研究の流れを大切にす

過去の十勝・帯広大会の研究主題は以下の通りである。

「不易」  
生きてはたらく  
言葉の力を  
全ての子どもに

年度	研究主題
1993	一人一人のよさを認め合い、生きてはたらく言葉の力を育む授業の創造
1999	一人一人の豊かな発想を生かし、 生きてはたらく言葉の力を高める授業の創造
2012	生きてはたらく言葉の力を高める授業の創造

十勝・帯広地区では、「生きてはたらく言葉の力」というものを大切にしてくれている。特に第67回十勝・帯広大会では、さらに四つの力に細分化し、明示している。

- ①言語活動を構成する四つの観点を活用する力
- ②日常生活や社会生活で必要とされる言葉の力
- ③課題解決の場面で主体的に発揮する力
- ④言語意識を高め、生かす力

さらに、それらの力を高める授業の在り方として、以下の4つの授業像を打ち出し、成果を上げている。

- ①言語能力を確実に身に付ける授業
- ②指導—活動—評価の一体化した授業
- ③単元の構成を工夫した授業
- ④言語活動を軸とした思考及び交流のある授業

これらの成果をしっかりと引き継ぎながら、近年の、十勝国語教育研究サークルや帯広市教育研究会国語部会の日々の実践研究の成果を踏まえ、研究主題を設定する。

以上のことを受けて、研究主題を以下のように設定した。

**【研究主題】**

**言葉への自覚を高め、**

**生きてはたらく言葉の力を育む授業の創造**

**Ⅲ.研究主題解説**

**※十勝・帯広大会の主題解説参照**

## 第75回十勝・帯広大会の研究主題

### 研究主題

### 「言葉への自覚を高め、生きてはたらく言葉の力を育む授業の創造」

AIが本格的に稼働するであろう未来社会は、現代社会では計り知れない変容・変革が予想される。その社会をたくましく生き抜いていくには、自らの手で未来を切り拓いていく資質・能力の育成が必須である。だが、現在の学校で行われている指導は、与えられた環境の中で終始し、様々な変化が待ち受けている実社会・実生活で生きてはたらく力となるには十分であるとは言い切れない。これからは、新しい時代を生きていくためにも学校教育の中で完結しない「言葉の自覚を高め、生きてはたらく言葉の力」の育成が必須である。

年ごとに激しくなる時代の変革に対応し生きて行くには、これまで推奨されてきた知識を記憶していただくだけの学び方では不十分である。日々変わる情報を自ら求めつつ見極めること。知識の概念的な理解に留まらず自らの言葉で再構成し、価値づけていくこと。そして、変化していく社会の状況に応じて、自ら学び続けていく資質・能力の育成が求められる。その為には、学校教育の中で自ら主体的に学ぶことや対話を通して他者と協働しながら課題を解決していくこと、物事を理解し自らの言葉で適切に表現していくことで、様々な社会に対応していくための資質・能力の育成を図っていかなくてはならない。これらの資質・能力は、国語科だけで習得できるものではなく、教育活動全体を通して育むものである。しかしそのためには、各教科の「言葉による見方・考え方」を働かせるための基盤作りが重要である。「言葉による見方・考え方」を身につけるには、児童が国語科の学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方に着目して捉えたり問い直したりして言葉への自覚を高めることが大切である。そして、言葉に注視しながら学びの集団の中で基礎的な力を培い、そしてその力を生かして一人一人が主体的に学びに向かうことができれば、日々変化する社会においても自分自身を更新し、対応し続けることができるだろう。

また、前大会から研鑽を重ねてきた言語活動については、これまでの研究の成果からも生きてはたらく言葉の力の育成に十分効果を発揮している。各学校における授業実践でも従来の指導方法から言語活動を意識した指導方法に移行する改善が見られ、一定の成果をあげてきたと考える。しかし、今後子どもたちが生きる未来社会でも通用する「生きてはたらく言葉の力」を身に付けさせるには、現在取り組んでいる言語活動のねらいをより明確にしていくことが必要である。これまでの一単位時間の学習内容を工夫する授業改善だけではなく、限られた時間の中で言語活動の質を高め確かな国語の力を身に付けていくためにも、長期的展望に立った指導計画をより重要視していきたい。国語の力は、反復的・螺旋的な継続した指導があってこそ身につくのである。それゆえ、学習指導要領解説の総説において示された6つの観点（①「なにができるようになるか」②「何を学ぶか」③「どのように学ぶか」④「子ども一人一人の発達をどのように支援するか」⑤「何が身についたか」⑥「実施するために何が必要か」）をもって見直し、改めて丁寧に計画していくことが必要不可欠である。このようにより計画的に指導することで、他教科との横断的な学習もより効果を発揮するのではないだろうか。

以上のことから十勝・帯広大会においては、言葉の自覚を高めながら、これまで取り組んできた言語活動の質を高めるためにも指導の全体を見極め、意図的・計画的に学習計画をデザインしていくことが大切だと考える。

第75回北海道国語教育研究大会 十勝・帯広大会

# 「大会会員総会」の要領

1. ねらい

- ① 大会参加者に、北海道国語教育連盟の活動について理解していただく。
- ② 道内各地の研究組織の動向について情報交流を行い、研究の連携を図る。

2. 日時及び会場

令和2年10月9日（金） 音更町立音更中学校

3. 内容

司会（連盟事務局）

	内 容	資料頁	資料作成者	提案者	時間
①	北海道国語教育連盟小史 北海道国語教育連盟 事業報告と計画 ※北海道国語教育研究大会の今後の開催地について	1 P 2 P	事務局次長 事務局長	事務局 次長	10分
②	全道各地の研究組織の活動状況報告 札幌小中 石狩小中 小樽後志 旭川上川 留萌 檜山 渡島 函館小中 空知 胆振苫小牧 帯広十勝 釧路 根室 宗谷 オホーツク 日高	6 P A4判1/2 19地区	各地区 (依頼と集約は事務局)		
③	前年度の全小国研、全中国研の報告、本年度の開催について	1 P	全小理事) 全中理事)		

4. 地区の活動状況報告の依頼予定者（敬称略）

札幌小	黒澤 英靖	(札幌市)	附属札幌小	小中学部副部長)
中	新井 拓	(札幌市)	附属札幌中	小中学部部長)
石狩小	湊 哲朗	(北広島市)	双葉小	地区委員)
中	桂川 淳	(千歳市)	祝梅小・頭	地区委員)
小樽・後志	黒川 裕之	(小樽市)	松ヶ枝中・長	地区委員)
旭川・上川	北川 恒	(旭川市)	東町小	地区委員)
留萌	明石 貴宣	(苫前町)	古丹別小・頭	地区委員)
檜山	米谷 優	(乙部町)	乙部小・頭	地区委員)
渡島	吉田 恵美	(七飯町)	七飯中	地区委員)
函館小	五島 博司	(函館市)	青柳小	地区委員)
中	長谷川敦也	(函館市)	恵山中	地区委員)
空知	菅原 寿一	(滝川市)	明苑中・主	地区委員)
胆振	反田 正樹	(登別市)	青翔中	地区委員)
十勝・帯広	杉澤 諭	(幕別町)	幕別小	地区委員)
釧路	土藏 辰弥	(釧路町)	遠矢中	地区委員)
根室	未 定	( )	( )	( )
オホーツク	尾中 基浩	(大空町)	東藻琴小	地区委員)
宗谷	高橋 正一	(猿払村)	鬼志別小・頭	地区部長)
日高	矢野 渉	(平取町)	平取中・頭	地区事務局長)

5. 今後の予定

- 5月 常任委員会にて本年度の「大会会員総会」の内容について提案（紙上）
- 7月 「地区活動状況報告」の依頼を各地区委員に発送
- 8月末 報告用紙の集約

6. 準備

- 資料の印刷・綴じ込みは、連盟事務局が行います。
- 十勝・帯広大会の大会要項の袋に入れ、全参加者に配布の予定です。

---

---

# 第76回北海道国語教育研究大会上川・旭川大会 開催要項（案）

---

---

令和3年度、上川・旭川大会のコンセプトは「継承と進化ー紡ぐ・織りなすー」である。これまでの研究大会の成果をしっかりと継承し、上川・旭川の国語人の力を紡ぐことで、更なる進化を成し遂げる研究大会を目指す。特に、以下の3点に注力する。

■今後の研究大会の在り方を見据え、持続可能性のある運営の方向性を示すこと。

■中学校は学習指導要領完全実施の初年度、小学校は2年度となることを意識した実践を発信すること。

■提言はもとより、分科会の運営委員等、上川管内からの協力を積極的に仰ぎ、研究大会の成果を令和9年度に引き継ぐこと。

当日は、質の高い「言語活動」を通して、言葉の力を確実に身に付けさせる「主体的・対話的で深い学び」を実現する国語科授業のあるべき姿を、ご参集いただいた皆様とともに追究していきたい。

## 1 主催

- ・北海道国語教育連盟
- ・旭川市教育研究会国語部会
- ・書写部会

## 2 後援

- ・北海道教育委員会
- ・旭川市教育委員会
- ・旭川市教育研究会
- ・上川管内教育研究会
- ・旭川市小学校長会
- ・旭川市中学校長会
- ・上川管内校長会
- ・旭川市小中学校教頭会
- ・上川管内教頭会
- ・北海道教育大学旭川校国語国文学会

## 3 主題

「言語活動を通して自らの考えを築き、つながる言葉の力を高める授業の創造」

## 4 期日

令和3年10月8日(金)

## 5 会場

- ・受付・公開授業・主題解説・分科会Ⅰ … 分科会構成一覧を参照
- ・開会式・分科会Ⅱ・大会会員総会・閉会式 … 旭川市立神楽小学校  
〒070-8005 旭川市神楽5条8丁目1番6号 TEL:0166-61-1171
- ・情報交換会（レセプション） … アートホテル旭川  
〒070-0037 旭川市7条通6丁目 TEL0166-25-8811

## 6 公開授業・分科会（15授業・15分科会）

・小学校会場

公開授業	領 域	授業学年	分科会	会場	開始時刻
公開授業 1	話すこと・聞くこと	小○学年	第 1 分科会	公開授業・分科会の会場は 市内各校を予定	
公開授業 2	話すこと・聞くこと	小○学年	第 2 分科会		
公開授業 3	書くこと	小○学年	第 3 分科会		
公開授業 4	書くこと	小○学年	第 4 分科会		
公開授業 5	読むこと（物語文）	小○学年	第 5 分科会		
公開授業 6	読むこと（物語文）	小○学年	第 6 分科会		
公開授業 7	読むこと（説明文）	小○学年	第 7 分科会		
公開授業 8	読むこと（説明文）	小○学年	第 8 分科会		
公開授業 9	伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項（古典）	小○学年	第 9 分科会		
公開授業 15	伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項（書写）	小○学年	第 15 分科会		

・中学校会場

公開授業	領 域	授業学年	分科会	会場	開始時刻
公開授業10	話すこと・聞くこと	中○学年	第10分科会	公開授業・ 分科会の会場は 市内各校を予定	
公開授業11	書くこと	中○学年	第11分科会		
公開授業12	読むこと（文学）	中○学年	第12分科会		
公開授業13	読むこと（説明文）	中○学年	第13分科会		
公開授業14	伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項（古典）	中○学年	第14分科会		

## 7 日程

・小学校日程

(8:45) (9:15) (10:00) (10:15) (11:35) 13:55 14:35 14:45 16:25 16:40 17:00

受付 ※各会場 30分	公開授業 ※各授業校 45分	休憩 15分	分科会Ⅰ (授業) 80分	移動・昼食 ※全体会場 100分	開会式 主題解説 40分	休憩 10分	分科会Ⅱ (提言) 100分	休憩 10分	大会役員総会 閉会式 20分
-------------------	----------------------	-----------	---------------------	------------------------	--------------------	-----------	----------------------	-----------	----------------------

・中学校日程

(8:45) (9:15) (10:05) (10:15) (11:35) 13:55 14:35 14:45 16:25 16:40 17:00

受付 ※各会場 30分	公開授業 ※各授業校 50分	休憩 10分	分科会Ⅰ (授業) 80分	移動・昼食 ※全体会場 100分	開会式 主題解説 40分	休憩 10分	分科会Ⅱ (提言) 100分	休憩 10分	大会役員総会 閉会式 20分
-------------------	----------------------	-----------	---------------------	------------------------	--------------------	-----------	----------------------	-----------	----------------------



※公開授業・分科会は市内各校で開催  
 ※授業開始時刻は、各授業会場校の日課に準じる  
 ※午後は全て全体会場（神楽小学校）にて開催  
 ※お弁当を注文された方は全体会場にて配付  
 ※参加者各自で移動（バスは配車なし。宿泊・交通手段については参加者各自で手配。）

- ・情報交換会（レセプション） … 18：30～20：30 アートホテル旭川  
 〈主な内容〉  
 ①開会の言葉 ②歓迎の挨拶 ③祝杯 ④乾杯 ⑤閉会の言葉

## 8 諸費

- ・大会参加料（大会要項・当日資料等） 5,000円（参加者全員）
- ・研究集録申し込み（大会終了後送付） 1,500円（希望者）
- ・弁当申し込み 1,000円（希望者）
- ・国語教育連盟会費（新規会員申し込み） 3,000円（希望者／研究集録・機関誌送付）
- ・情報交換会 5,000円（希望者）

## 9 式次第

- ・分科会

分科会Ⅰ（授業）	分科会Ⅱ（提言）
一 授業者、司会者、助言者紹介 二 領域主題説明（各領域委員長等） ・領域主題 ・実践経過と課題 ・討議の柱 三 授業者より 四 研究協議 五 助言	一 提言者紹介 二 提言1 旭川 三 提言2 上川・北海道 四 研究協議 五 助言

- ・全体会

開会式	大会会員総会	閉会式
一 開会の言葉 二 主催者挨拶 ・大会長 ・大会運営委員長 三 祝辞 ・上川教育局 ・旭川市教育委員会 四 来賓紹介 五 閉会の言葉	一 開会の言葉 二 連盟委員長挨拶 三 会務報告 四 活動状況報告 五 閉会の言葉	一 開会の言葉 二 主催者挨拶 ・大会長 ・大会運営委員長 三 次期開催地挨拶 四 閉会の言葉

## 10 準備スケジュール

	国語連盟	全体	運営委員会	事務局	研究部
令和元年度 前期 ～8月	常任委員会 5月18日(土) 運営委員長 常任理事 研究部長参加	旭教研各部総会 4月9日(火) 前年度活動報告 新年度活動計画 役員改選	準備委員会 7月12日(金) 大会運営組織 研究の方針 日程・会場校 分科会構成 準備日程提示 会場校打診 校長への挨拶	研究推進運営 委員会① 5月10日(金) 各領域活動計画・ 報告	研究主題解説案の 準備 各領域実践課題の 準備
				研究推進運営 委員会② 6月18日(火) 研究費支給 旭教研研究大会 基本計画	主題の具体化 手立ての準備 指導案形式の検討
			挨拶まわり 局長・教育長 協賛の依頼	夏期研修会 8月上旬 授業者・提言者 研修会	指導案形式の提案 授業者・提言者 学習会

		国語連盟	全体	運営委員会	事務局	研究部
令和元年度	後期 9月～	第74回札幌大会 10月11日(金)	旭川市教育研究大会 10月16日(水) 開催要項(案)の 共通理解 研究推進の方向性 を再確認	運営委員会① 9月中旬 授業者・提言者の 確認 運営部各部の業務 分担確定	研究推進運営 委員会③ 9月3日(火) 旭教研研究大会最 終確認 授業者・提言 者状況確認	研究大会指導案の 検討  研究主題解説案の 提示 10月16日(水) 各領域実践課題の 準備
				運営委員会② 1月下旬 授業者・提言者 の確認 運営部各部の活動 計画確認	研究推進運営委員 会④ 2月4日(火) 大会予算案策定 補助金申請の 準備	各領域研究内容の 交流  各領域実践課題の 検討
令和二年度	前期 ～8月	常任委員会中止 緊急事態宣言に より	旭教研各部総会 中止 緊急事態宣言によ り	運営委員会① 6月上旬 授業者・提言者 の打診 助言者の選定 各部提案検討	研究推進 運営委員会① 5月 各領域活動計画・ 各部活動計画の 提案検討	授業者・提言者 確認 研究主題解説 校種別実践課題 領域別主題提案
					研究推進 運営委員会② 6月中旬 旭教研研究大会基 本計画 運営各部活動状況 の報告	各領域委員会 プレ研  研究主題解説の 修正
令和三年度	後期 9月～	第75回十勝 ・帯広大会 10月9日(金) 次期開催地挨拶 運営委員長	旭川市教育研究大会 10月13日(火) 授業者・提言者の 再確認 主題解説・領域別 主題提案	運営委員会② 8月中旬 授業者・提言者の 確認 各部提案・検討	研究推進 運営委員会③ 9月上旬 旭教研研究大会 最終確認 運営各部活動状況 の報告	研究主題解説等最 終決定 11月  各領域委員会 プレ研
				運営委員会③ 1月下旬 授業者・提言者 の確認 各部タイムテー ブル提案・検討	研究推進 運営委員会④ 2月上旬 新年度の計画 運営部各部活動 状況の報告	
令和三年度	前期 ～8月	常任委員会 5月 大会開催要項の 提案	旭教研各部総会 4月 前年度活動報告 新年度研究組織 活動計画 役員改選	運営委員会① 6月上旬 二次案内原案提案 運営各部進捗状況 報告	研究推進運営委員 会① 5月上旬 各領域活動計画 報告 運営各部活動計画 の再確認	各種提案 分科会運営マニユ アル 当日のタイムテー ブル 大会要項執筆要領 の提案
				当日タイムテーブル ・来賓動向の確認  2次案内発送 6月下旬 申込〆切8月下旬	研究推進 運営委員会② 6月中旬 旭教研研究大会 基本計画 運営部各部活動 状況の報告	
令和三年度	後期 9月～	第76回上川 ・旭川大会 10月8日(金)	旭川市教育研究大 会 10月中旬 上川・旭川大会の まとめ 成果と課題 今後の方向性	運営委員会② 8月中旬 各部進捗状況 報告 各部最終確認 内容の検討 各部タイムテー ブル最終確認	研究推進 運営委員会③ 9月上旬 運営部各部 最終確認 旭教研研究大会 最終確認	各種確認 分科会運営マニユ アル 当日のタイムテー ブル等 研究部所管業務の 最終確認
				運営委員会③: 1月下旬 運営各部反省 大会総括・決算	研究集録発行 研究推進 運営委員会④ 2月上旬 研究会反省	研究集録原稿の 確認

# 研究主題の解説及び研究の視点

旭川市教育研究会 国語部  
研究部長 椎 名 俊 文

## 1 研究主題

---

言語活動を通して自らの考えを築き、つながる言葉の力を高める授業の創造

---

## 2 主題設定の理由

中央教育審議会の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」には、「社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきており、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、全ての子供たちの生き方に影響するものとなっている。このような時代だからこそ、子供たちは、変化を前向きに受け止め、社会や人生を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしていくことが期待される。」「子供たち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である。」とある。

急激な社会的変化が進み、数年先の未来が予測困難である今、その社会を生きていく子供たちには、変化に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力や、多くの情報の中から本当に必要なものを見極め活用する力、生涯にわたり主体的・能動的に学び続ける力などが求められている。

平成27年度に行われた第70回旭川大会では「主体的な学びを生み出す言語活動を通して、ひびき合う言葉の力を鍛える授業の創造」を研究主題として、豊かな言語活動を展開するための具体的な手立てや、付けたい力の明確化を進め、「生きる力」を育成する国語科としての有効なアプローチを提案し、一定の成果を得ることができた。その成果と課題を踏まえて、本市では年1回の研究大会の開催、小学校・中学校の領域を超えた授業公開を行い、研究を継承、発展させてきた。

新学習指導要領全面実施となる今、言葉を学習対象とする国語科において、求められることは何か。それは、より質の高い「言語活動」を通して、子供たちに生きて働く言葉の力を付けるための学びを実現することである。

「言語活動」はこれまで国語科で重視されてきたものと変わらない。その「言語活動」が質の高いものであればあるほど、子供の主体性が引き出せる。子供にとって「なぜ学ぶのか」という目的が明確になるため、単元を通して主体的な学習が期待できる。このような、子供たちが主体的に学ぶ、質の高い「言語活動」を国語科の授業の中心に据えることが何よりも重要である。また、「言語活動」を中心に据えることで、言葉を使って考えたり、判断したり、表現したりする必要感が生まれる。子供たちは自分が言葉で考えたことを、他者とのコミュニケーションなど様々な側面（要

素)から問い直して理解し直したり、表現し直したりする。そのように、自分の考えが築かれるときには、他者をはじめ様々な側面(要素)とのつながりがあり、思考が深まっていく。それが、日常生活や他教科の学習に生きて働く言葉の力につながっていくと考える。

以上のことから、質の高い「言語活動」通して自分の考えを築き、様々な側面(要素)とのつながりのある学びに焦点を当てて取り組むことが、日常生活で生きて働く言葉の力を育成することにつながると思え、本研究主題を設定した。

### 3 研修主題の解説

本研究主題が目指すものは、大きく2つの柱でまとめることができる。1つめの柱は「自らの考えを築く」こと、2つめの柱は「つながる力を高める」ことである。

#### (1)「自らの考えを築く」

授業の中で、言葉を使って考えてきたことを子供自身が確かめたり、自らの考えが変容したことに気付いたりすることなどを通して、子供自身が、自らの考えを構築したり、再構成したりすることを目指すものである。

その実現のために、土台となるのは、

- ・思考過程が明確になる単元の設定(指導計画)
- ・単元を包括する見通しと振り返りの設定
- ・学ぶ必要感を引き出す課題の設定
- ・新たな発見のある学習場面の設定

などである。学習指導要領の内容である「考えの形成」を具現化した単元を構成していくことがポイントとなる。

#### (2)「つながる言葉の力を高める」

(1)の「考えを築く」過程や「考えを築いた」結果の中で、

- ・対象と言葉がつながり、関係性を理解したり、意味付けをしたりすること
- ・言葉の知識と言葉の知識がつながり、より深い学びに向かうこと
- ・自分と他者がつながり、共に学ぶことで、考えが変化したり、学びが深まったりすること
- ・自分の教室での学びが社会や生活の中で発揮されること

などである。学習指導要領の内容である「共有」を具現化した単元を構成していくことがポイントとなる。

これらのことを、授業に仕組み、言葉の力を高めることが、研究主題の目指すところである。

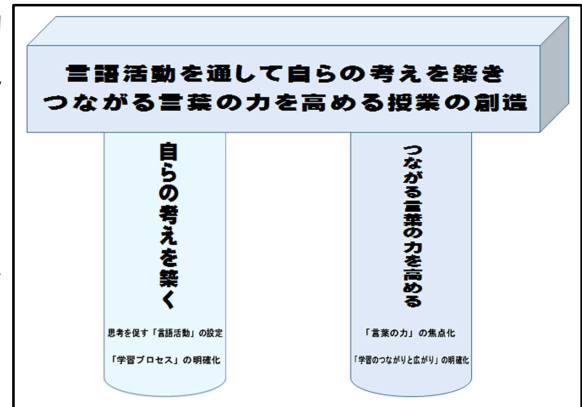
### 4 研究の視点

#### (1)「自らの考えを築く」言語活動

思考を促す「言語活動」の設定

単元を通して、子供が主体的に取り組むことができる「言語活動」を設定する。この「言語活

動」は、「学習課題」とともに単元の導入で効果的に提示することで、子供たちに単元のゴールを見通せるようにする。単元を通して取り組む「言語活動」が明確になれば、単位時間の学習活動（単位時間の言語活動）とリンクして、学習活動が明確になる。子供たちにとっては、学ぶ必要性が明確になり、主体的に思考、判断、表現する学習につながると考える。



#### □「学習プロセス」の明確化

子供の「思考過程」を位置づけた学習過程を、単元の「学習プロセス」とする。どの過程で考えが形成され、その後どのように変容するのか、広がるのか、深まるのか、「学習プロセス」の明確化によって、子供たちに思考の変容や再構築を促す。

#### (2)「つながる言葉の力を高める」指導の手立て

##### □「言葉の力」の焦点化

身に付けるべき「指導事項」を「言葉の力」として設定する。焦点化することで、「学習プロセス」とともに、学ぶべき内容を明確にする。

##### □「学習のつながりと広がり」の明確化

国語科の学習には「単元間のつながり」「学年間のつながり」「領域間のつながり」「教科間のつながり」がある。そのつながりを把握し、既習事項やその後の学習との系統性や連続性を明示する。また、学習が進むことによって考えられる、振り返りや繰り返しの必要性、学習の高まりなども明らかにする。

## 5 「授業プラン」

本研究主題で目指す授業を実現するために提案するのが「授業プラン」である。

「授業プラン」では

- ・「自らの考えを築く」言語活動
- ・「つながる言葉の力を高める」指導の手立て

の2点を重点的に記述する。

「自らの考えを築く」言語活動の部分には、①単元で中心となる言語活動を記述し、②子供の思考の過程を「学習プロセス」に記述し、③言語活動の解説を「言語活動例」に記述する。

「つながる言葉の力を高める」指導の手立ての部分には、①付けたい言葉の力を焦点化し、②つながりを仕組む指導の詳細を「指導の手立て」に記述し、既習事項やその後の学習との連続性を③「学習のつながりと広がり」に記述する。

## 役員選考報告

### 北海道国語教育連盟 役員（推薦）

役職	氏名	所属校	職	備考
委員長	大田 利幸	札幌市立陵北中学校	校長	新任
副委員長 6名	松岡 伸之	釧路市立北中学校	校長	再任
	山田 洋	幕別町立幕別小学校	校長	
	林 貞年	札幌市立中央小学校	校長	留任
	神林 宏行	旭川市立西神楽中学校	校長	
	木村 佳子	札幌市立中央中学校	校長	新任
	紺野 克典	函館市立大森浜小学校	校長	
事務局長	横道 幸紀	札幌市立真駒内中学校	校長	新任
会計局長	西村 裕子	札幌市立西野小学校	校長	新任

令和2年5月16日

上記の通り、

令和2年度北海道国語教育連盟役員の報告をもって、承認とさせていただきます。

選考委員長 常任委員

猪股嘉洋



(札幌：新陵小学校長)

令和2年度 北海道国語教育連盟 常任委員会 各位

## 顧問委嘱

### 北海道国語教育連盟 顧問

(前役職)	氏名	退任事由	委嘱
(委員長)	若松 広美	任期2年の規定により、退任。	顧問
(副委員長) 2名	黒澤 敏行	定年退職により、退任。	
	大浦久美子	定年退職により、退任。	
(事務局長)	葛西 孝之	任期2年の規定により、退任。	

令和2年5月16日

上記の名簿の通り、北海道国語教育連盟顧問に委嘱いたします。

北海道国語教育連盟  
委員長 大田 利幸  
(札幌：陵北中学校長)